

青森県

い な か だ て

田舎館村

2 0 2 5 村 勢 要 覧

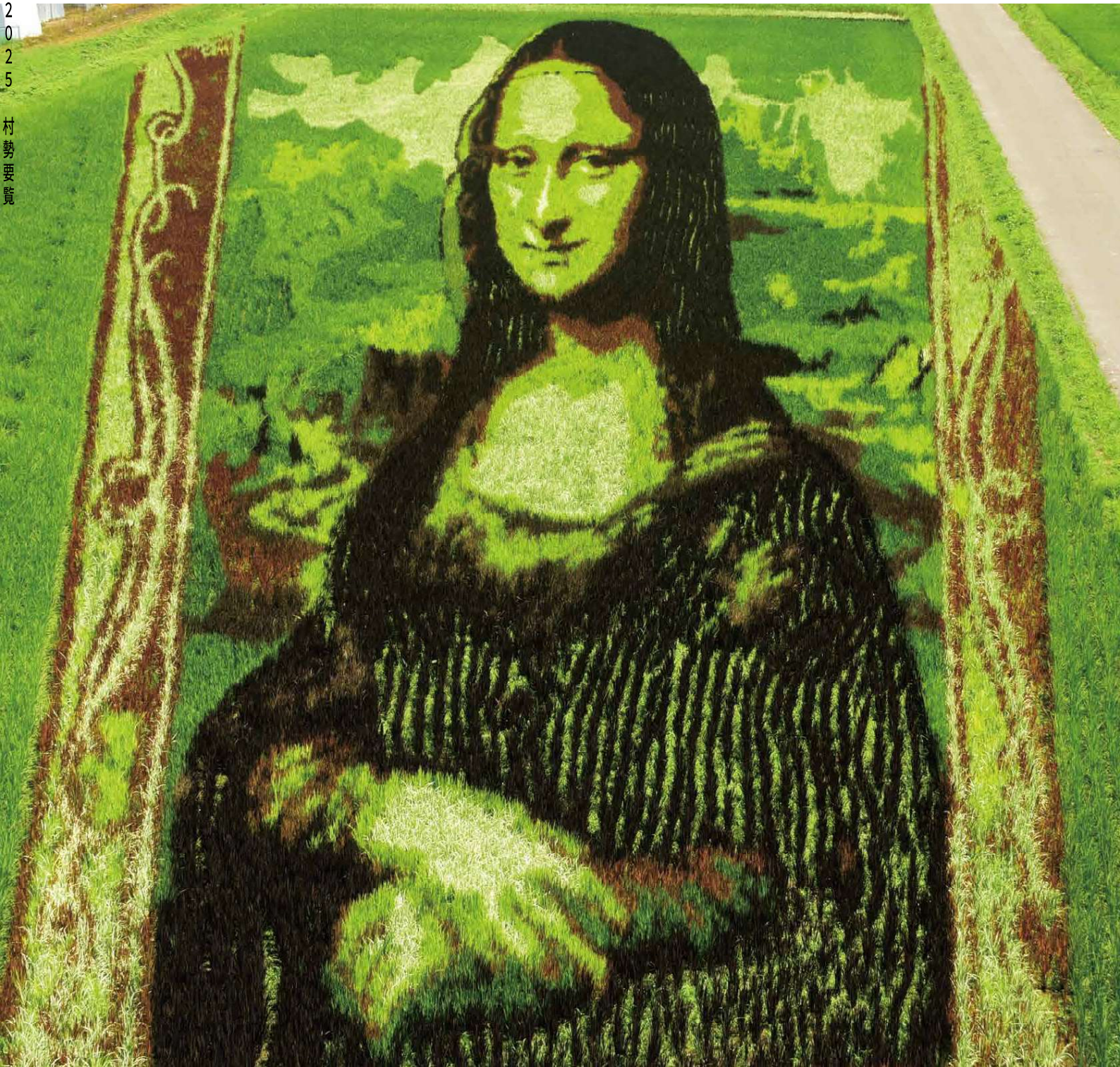
Inakadate Village's Guide Book 2025



青森県田舎館村

2025

村勢要覧



目次 -Contents-

3	沿革・地勢
5	いなかだてガイドマップ
7	豊かなしごとがあるむら
9	安全で住みやすいむら
11	自ら学ぶむら
13	すこやかなむら
15	持続可能なむら
17	四季
19	村民憲章・村民歌
20	資料編

数字で見る田舎館村…	21	運輸・建設……………	30
土地……………	22	教育・文化……………	31
人口……………	23	選挙……………	33
消防・交通……………	24	議会……………	34
農業……………	25	行政……………	35
産業……………	26	財政……………	37
福祉・保健……………	27	あゆみ……………	39
環境・衛生……………	29	主な施設……………	42





発刊にあたって

田舎館村は、北方稲作文化繁栄の地を誇りとし、輝かしい歴史と伝統を築いてきた村です。津軽平野の南側に位置し、西に秀峰岩木山、東に八甲田連峰の姿を臨みつつ、風光明媚な地において自然の恵みを享受し、先人の人々がともに手を携え、苦労を重ねながら村の発展に尽力されてきたことに対し、心から敬意を表するものです。

農業の村、稲作の村として全国に名前の知られた田舎館村は、第一次産業を中心に所得の向上を図るとともに、併せて企業誘致にも取り組んでおり、青森県内でも早くから工業団地を整備し、自然と工業の調和した故郷として発展を続ける取組みを行っています。

山のない平坦な土地で、これといった観光資源のない田舎館村ですが、今では田んぼアートのかたちとして有名になりましたが、平成5年に開始してから33年間、休むことなく続けてまいりました。第2会場には、夏の田んぼアートと石のアート、冬には冬の田んぼアートを制作し、広く県内外からのお客様に見学していただいております。

村では、少子高齢化による人口減少、短命村といった様々な問題を抱えておりますが、自分の体は自分で守る、健康診断を受け、早めの治療が短命村返上に繋がります。健康寿命の延伸を目指し、村民の皆様とともに新しい時代に向けた村づくりを進めて参ります。

川部駅東口に交流センターが完成し、今まで以上に利便性が向上しました。今後、宅地開発により、更なる活性化が進むものと期待しております。

また、近年の異常気象により気候変動が発生しております。大雨、豪雪、高温など様々な災害から村民の財産と生命を守るため、自主防災組織が求められており、すべての地区で組織ができるよう取組みを行い、自主防災組織を拠点として村民同士の絆が一層深まることを願っております。

この要覧は、未来に向けた田舎館村の姿を広く知っていただくために刊行したものです。村のあらましをご理解いただき、今後の村づくりに更なるご協力をいただければ幸いです。

田舎館村長 **品川 新一**

つながりが
笑顔を育む
わが田舎

沿革・地勢

津軽平野の南部に位置し、西に岩木山、東に八甲田連峰をのぞむ田舎館村は、昭和30年4月1日に田舎館村と光田寺村の合併により誕生しました。村内からは縄文時代や弥生時代の遺跡が多く確認されており、特に弥生時代中期の水田跡656枚が検出され、国史跡に指定されている垂柳遺跡は東北地方における稲作農耕の歴史において貴重な発見となり、当時全国的な注目を集めました。

「田舎館」の地名はいつごろ、どのようにして生まれたのか由来ははっきりとしていませんが、天文15年（1546年）の「天文の郡中名字」という村帳には「村は津軽田舎郡に属していた」と記されています。また、昔はこの地域一帯が蝦夷の中央であったため「夷中」と称され、それがのちに「田舎」となった説や、これまでの米作りの歴史から大和言葉の「稲家」が地名に関係しているとも考えられています。

村の中央を流れる浅瀬石川、弘前市との境を南北に流れる平川があることから、土地の大部分は河水に運ばれた土が堆積して生じた土壌（沖積土）で覆われており、豊かな水と肥よくな土壌は、はるか昔から現在まで私たちにたくさんの恵みを与え続けています。

農業を基幹産業としながら、周囲を弘前市、黒石市、平川市、藤崎町に囲まれている立地条件を活かして企業誘致を進めており、自然と工業の調和した稲かおるふる里として、発展を続ける取り組みを行っています。



村章

統一円満を意味する円の中に、田舎館村の頭文字であり、稲穂が実る村のイメージとしての「田」がおさめられ、上部には村の歴史を物語る館（城）を配しています。広く一般に公募した中から当時の川部小学校に勤務していた高木春雄氏の作品を選び、昭和34年に制定しました。



村の花 “稲の花”

弥生時代から続いていたことが明らかになっている稲作は村の基幹産業であり、これまで反収日本一を何度も記録したほか、現在は食味日本一を目指した米作りが行われています。また、色の異なる品種の稲で絵を描く田んぼアートは国内外から注目を集め、村の代表的な取り組みの一つとなりました。稲の花は開花から2時間ほどしか咲きませんが、限られた時間を精一杯生きるさま、神秘的で貴重な花であることから、村に相応しく、村の土台を支えている花といえます。この村の花は平成23年に制定しました。



村の木 “サイカチ”

サイカチはジャケツイバラ科サイカチ属の落葉高木で、幹や枝には鋭いトゲが多数あります。生育はすくすくと伸びやかに枝を広げ、夏の日差しを緑の葉で和らげ、秋にはさや状の実がたくさん実ります。天正13年（1585年）、津軽為信の攻略で亡くなった300余名を埋葬した際の供養樹として田舎館城址に植えられており、生育の様子や歴史的観点のほか、村指定文化財でもあることから、村を象徴するもっとも相応しい木といえます。この村の木は平成23年に制定しました。

田んぼアート PR 特命係長
こめ
米こめくん



【プロフィール】

- 生まれた日 / 8月18日
- 身長 / 185cmくらい
- 好きなもの / 田舎館いちご、シクラメン

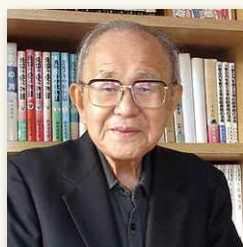
田んぼアートから誕生したお米の妖精。ご当地キャラクターとして田舎館村をPRするため、県内外のイベント等に登場しています。

名誉村民



田澤吉郎氏

大正7年1月、諏訪堂地区生まれ。昭和22年に青森県議会議員として当選後、同議長を経て昭和35年に衆議院議員として初当選以来12期連続当選。昭和51年に国務大臣国土庁長官、昭和56年に農林水産大臣、昭和63年8月と同年12月に防衛庁長官（2期）を歴任されました。



鈴木喜代春氏

大正14年7月、高田地区生まれ。東光寺尋常小学校、青森師範学校本科を卒業後、前田屋敷国民学校訓導、千葉県の小・中学校長を歴任し、千葉大学教育学部講師を経て、晩年は執筆活動に専念されました。昭和62年に「津軽の山歌物語」で第12回日本児童文芸家協会賞を受賞されたほか青森県文芸協会賞などを受賞。平成7年に自著を含む4千冊以上の蔵書や執筆原稿を村へ寄贈されたほか、平成23年に統合した田舎館小学校の校歌を作詞されています。



花田茂廣氏

昭和13年3月、大鰐町生まれ。生後まもなく川部地区に転居後、小・中学校、高校時代を過ごし、昭和30年に春日野部屋へ入門。同年9月に「花田」で初土俵をふみ、その後しこ名を「栃ノ海」に改め、昭和37年に大関、昭和39年に第49代横綱へ昇進。昭和41年に引退するまで優勝3回、技能賞6回、敢闘賞1回を受賞。引退後は、年寄「中立」を襲名、平成2年1月に春日野部屋を継承され春日野親方、日本相撲協会理事、巡業部長を歴任されました。



菅井勲氏

昭和19年1月、青森市生まれ。幼年時代を新町地区で過ごし、東京理科大学理学部第二部物理学科を卒業後、平成元年に東京工業大学より理学博士の学位を受け、東京大学原子核研究所文部教官助手を務められました。昭和53年に原子核実験用標的薄膜制作で科学技術庁長官賞を受賞。平成6年には高エネルギー加速器科学研究奨励賞、西川賞、市村学術賞など科学関係最高権威の賞を多数受賞されました。

芸術文化

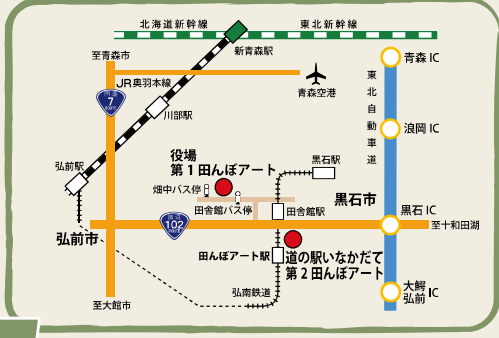


田澤茂氏

大正14年1月、川部地区生まれ。画家として昭和61年に「田澤茂画集」を出版。平成5年には第15回日本秀作美術展に選出されました。平成16年には、長年子どもの絵画教室を主宰し、多くの美術家を育成してきた功績により青森県文化賞を受賞。生前は、広報いなかだて1月号の表紙画も描かれていました。埋蔵文化財センター・博物館〔田澤茂記念美術館〕では田澤氏の数々の作品を展示しています。

いなかだてガイドマップ

田舎館村には21の集落（高樋、十二川原、枝川、垂柳、田舎館、八反田、畑中、大曲、諏訪堂、大根子、豊蒔、大袋、川部・和泉、境森、前田屋敷、土矢倉、堂野前、新町、東光寺、二津屋、高田）があり、それぞれの地区では住民により集落会、消防団、子ども会、婦人会、老人クラブ等が組織され、集落内の公園や農業水路などの環境美化活動、ねふた運行や祭り行事、スポーツ大会などのコミュニティ活動、防災訓練等の自主防災活動、防火活動などの自治活動が行われています。



「弥生の里」エリア



国道102号バイパス道路沿いにある道の駅いなかだて「弥生の里」には遊具やパターゴルフ場、産地直売センターなどがあり家族揃って過ごすことができます。



産地直売センター



弥生の里展望所



弘南鉄道/田んぼアート駅



JRAウイNZ津軽



埋蔵文化財センター
・博物館(田澤茂記念美術館)



総合案内所「遊稲の館」

道の駅いなかだて「弥生の里」
第2田んぼアート

「弥生の里」エリア
産地直売センター
弥生の里展望所
弘南鉄道/田んぼアート駅
JRAウイNZ津軽
埋蔵文化財センター・
博物館(田澤茂記念美術館)
総合案内所「遊稲の館」

交通のご案内

- 電車**
- JR東日本/川島駅 車(約10分) 役場 車(約5分) 道の駅
 - 弘南鉄道/田舎館駅 車(約5分) 役場
 - 弘南鉄道/田んぼアート駅 徒歩(約1分) 道の駅
- 飛行機**
- 青森空港 車(約45分) 役場 車(約5分) 道の駅

- お車**
- 黒石IC 車(約5分) 道の駅 車(約5分) 役場
 - 大鰐弘前IC 車(約20分) 役場 車(約5分) 道の駅
- バス**
- 弘前駅前バス停 黒石・大川麻行き(約20分) 畑中 徒歩(約3分) 役場
 - 黒石駅前バス停 弘前バスターミナル(約12分) 田舎館 徒歩(約5分) 役場

観光

～季節の中の表現～

田んぼをキャンパスに見立て、黄稲や紫稲など8色の稲で精細な図柄を表現する田んぼアートは、平成5年に田舎館村から発祥しました。当時は田んぼアートという名称がなく稲文字と呼ばれていたものが年々進化を重ね、今や国内外から注目を浴びるようになりました。また、平成26年には天皇皇后両陛下がご来村され、第1田んぼアートをご観覧になられました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、制作や観覧が中止となる時期もありましたが、令和4年度より観覧を再開し、多くの方に感動をお届けしております。



令和7年度第2田んぼアート「映画『おいしい給食 炎の修学旅行』」©2025「おいしい給食」製作委員会

道の駅いなかだて敷地内へ弥生の里展望所を整備し、平成24年から始めた第2田んぼアートでは従来の田んぼアートのほかに、色の異なる小石を並べて著名な故人を描く石アートを平成27年から始めました。さらに第2田んぼアート約10,000㎡を活用した冬期観光の取組みにも新たに着手し、平成28年と29年には、雪原をスノーシューで歩き、その足跡で模様を描くスノーアート第一人者で英国人のサイモン・ベック氏の協力のもと、冬の田んぼアートを青森県と共同で開催。その後は、手法を継承したスノーアーティスト集団It's OK.が制作しており、冬期間でありながらも、多くの方が観覧に訪れます。



石アート「棟方志功」



歴史

～先人たちの軌跡～

垂柳遺跡(国史跡)によって明らかになった弥生時代から続く稲作農耕は、田舎館村を象徴する歴史のひとつです。また、村には多くの文化財や工芸、伝統行事などがあり、先人が築いてきた歴史や文化を今に伝えています。

弥生時代の水田跡／埋蔵文化財センター(遺構露出展示室・高樋(3)遺跡)



垂柳遺跡出土品／埋蔵文化財センター 【県重宝】

垂柳遺跡から出土した遺物を展示しており、中でも田舎館式鉢形土器2点、壺形土器2点、蓋形土器4点、土偶、磨製石斧、炭化米の計11点は県重宝に指定されています。

田舎館城址／田舎館地区 【村文化財指定】

田舎館城五代城主千徳掃部政武の居城跡。
天正13年(1585年)5月、津軽為信によって攻略され、その戦いで亡くなった300余名を埋葬した際に供養樹として植えられた樹齢400年以上のサイカチ大樹と、昭和59年に建立された記念碑が昔を偲ばせています。



【県重宝】

十一面観音像／田舎館地区(胸肩神社・弁天堂)

美濃(岐阜県)出身の僧、円空による寛文7年(1667年)頃の作で、円空仏とも呼ばれています。青森県内に残る同像の中では早い時期のもので、最も高い約182cmの総高で作られています。



中村善時「耕作晰」／博物館 【村文化財指定】

安永5年(1776年)、70余年間の農業体験を説いた農書。江戸時代の寒冷地における稲作の状況や指導が記されています。



垂柳獅子踊／垂柳地区 【村文化財指定】

垂柳獅子踊保存会による村の無形民俗文化財。元和時代(1615～1624年)、田舎館組代官の所在地だった垂柳地区で始まり、殿様の歓迎迎に催されていました。道化役のお可笑子、牡(大・中)、牝獅子で構成され、催しの場や集落の行事で披露されています。

産業

～育てる農業、広がる物産～

田舎館村の基幹産業は農業で主に米やりんごが生産されています。

しかし、高齢化や後継者不足、異常気象による収量や品質の低下など、農業を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。

これらの課題に対し、離農等により作り手のいなくなった農地を担い手の方へ集積・集約させるとともに休耕田を活用した大豆生産や園芸施設でのトマト、いちご栽培などを組み合わせた複合経営を進め、気象条件に左右されにくい安定した農業経営の実現を目指しています。

また、経営の不安定な青年就農者や新規就農者などに対し、様々な助成を行っているほか、6次産業化を進めるための商品開発や販路開拓支援による収入機会の確保、農地の大型区画化や農業用機械の購入補助による生産性の向上にも力を入れています。

また、村では農業の振興と併せて企業誘致にも取り組んでいます。青森県内でも早くから工業団地を整備し、現在は製造業を中心に22社が操業。令和元年には縫製工場が新たに廃校となっていた小学校を活用し操業を開始しました。現在は村内外の約900人以上が働く貴重な雇用の場となっています。



シクラメン

品種改良が進み、色が豊富です。秋に開催する収穫感謝祭&シクラメン市で展示販売されます。



村の米生産団体「^{とろびかい}稲華会」では、化学肥料・農薬を節減し、環境にやさしい農業に取り組んでいます。他にも米の食味にも力を入れており、県内外の食味コンクールにおいて村内の生産者とともにこれまでも多数の受賞を果たしています。

物産



りんご (サンふじ)



トマト



桃 (だて白桃・川中島白桃・まどか)



ジャンボあられ



玄米せんべい・玄米りんごせんべい



古代米



特産品の新たな形

～ダテじゃない。田舎館ブランド～

田舎館村の自然や伝統、技術などを活かし、田舎館らしさにこだわり生産された優れた産品を田舎館ブランドとして認証する「田舎館ブランド認証制度」がはじまりました。認証品は物産展などの各種イベントに出品し、積極的にPRしていきます。



トマトジュース・ジャム・ドレッシング/
たざわトマト



1/350 青森県田舎館村役場プラスチック
キット/(株)ソルテック



ミニフィギュア「いち姫」/(株)ソルテック



黒にんにく 田んぼアート/(有)ケイエス青果



いちご (とちおとめ・ロイヤルクイーン)/
田舎館いちご研究会



溶接体験/アイアンプラネット ベースオブ津軽



教育

～子どもから大人までの学びの充実を～

学校教育

スクールカウンセラーや学習支援員を小・中学校に配置し、児童、生徒の個性を尊重した指導、支援を図っているほか、各教室への空調設備の設置や、GIGAスクール構想によるWi-Fi環境の整備と児童・生徒に1人1台タブレットパソコンを支給するなど教育環境の充実を図っています。学校・家庭・地域が連携し、社会の変化に対応できるよう、教育の内容を充実させ、心身ともに健全な児童生徒の育成に努めています。

また、田舎館中学校敷地内にある学校給食センターでは、村産・青森県産食材を取り入れた栄養バランスに優れた給食の提供を通じて、児童、生徒への食育を推進しています。給食は小、中学校や他市町村の学校施設等へ提供しています。



大人のcoffee教室



白寿大学



筋力トレーニング教室「MUSCLETE」



イルミネーション事業「ヒカリノアゼミチ」

社会教育・生涯学習

社会教育等では、幼児から高齢者まで多様な学習機会の充実を図っており、幼児期には、親と子に関する様々なテーマで行う家庭教育講座やスポーツに触れる機会を作るスポーツ体験教室、少年期に小学校児童の校外活動として保護者主体で行われているスポーツ少年団活動、子ども会育成連絡協議会によるリーダー研修会やスポーツ大会、成人教育では、学習ニーズに応じて実施する成人教養講座や高齢化社会に対応した生涯学習を提案しながら年間を通して実施する白寿大学を実施しています。

さらに、新たな試みとして令和3年度からイルミネーションを活用した地域振興事業にも取り組んでいます。

福祉

～住民の心も体も健やかに～

田舎館村では、安心して出産・子育てができ、健康で長生きができる環境を構築するために、様々な取組みを行っています。特定健診やがん検診、保健指導等を充実させているほか、令和8年度からこども家庭センターを設置し、妊娠から切れ目のない支援を行っております。

また、令和3年度からは村に3か所あった児童館・児童クラブを統合した田舎館村児童センターの供用を開始し、併設されている子育て支援センター（地域子育て支援拠点事業）では、育児の不安や悩みごとの相談に応じています。



主な取組み

- 出産・育児用品購入等にかかる支援金の助成
- 風しん抗体検査・予防接種の費用を助成
- 0歳から高校3年生相当（18歳）までの医療費の自己負担額の全額を助成
- 第3子以降の出産に対する出産祝金事業
- 保育料の完全無償化
- 学校給食費の無償化
- インフルエンザや新型コロナウイルスの予防接種費用の助成
- 地域高齢者見守り福祉事業による高齢者の安否確認や民生委員による児童、生徒の見守りの実施
- 聴力が低下した高齢者の補聴器購入費の助成
- 3歳以上児の保育所等副食費の無償化
- 弁護士による法律相談
- 産後ケア事業
- 各種健（検）診の受診料金無料（脳ドッグ・胃カメラは一部助成）
- がん検診精密検査料の助成

防災・交通

～安心・安全な村づくりへ～



田舎館村消防団出初式

近年多発している自然災害に対し、田舎館村では更なる防災体制の見直しや強化を図っています。突発的な自然災害による被害の防止や軽減、住民の防災に対する意識の啓発を図るため、地区住民による自主防災組織の設立と育成、発電機や炊き出しに必要な資機材の整備などを進めているほか、令和3年度には、4月から運用を開始した新中央公民館・体育館を活用し、有事の際の防災拠点となるよう避難所用資機材などの整備を進めています。また、村内を流れる河川が洪水になった際の浸水想定区域を見直した改訂版洪水ハザードマップを作成し、住民へ周知を促しました。

日常生活においても、住民が安全で快適に過ごせるよう、消防団活動の推進や消防設備等の整備、交通安全協会、交通安全母の会、交通指導隊、防犯指導隊など関係団体と連携しながら、防火や交通安全、防犯の取り組みを行っています。



避難・誘導訓練



交通安全では啓発活動や講習会、街頭指導などを実施



公共交通機関では、JR奥羽本線と五能線が行き交うJR川部駅、弘前市～平川市～黒石市間を結ぶ弘南鉄道の田舎館駅、弘前市を中心に管内を運行する民営路線バスのほか、タクシーもあります。また、令和7年度には新たな玄関口として田舎館村川部駅交流施設が完成しました。

道路では主要幹線が整っており、適切な維持補修を継続しています。冬場の除排雪についても万全の体制を敷き、安定した交通網の確保に努めています。



田舎館村川部駅交流施設

行政・議会

～住民の声を実現する～



田舎館村役場・文化会館・展望台は、今から約400年前に田舎館地区に居城を構え、付近一帯を治めていた田舎館五代城主千徳掃部政武の心情を察し、全体がお城に見えるよう設計しています。行政サービスを提供する場であると同時に、展望台4階展望デッキは第1田んぼアートや津軽平野の景色を一望することができる観光スポットとなっています。行政では、人口減少、地域経済の発展、地方創生など“村づくり”を進めるために、関係機関と連携を取りながら、様々な施策に取り組んでいます。



(右) 教育長 工藤 義明

(中) 村 長 品川 新一

(左) 副村長 金枝 尚明

村議会は、令和7年4月1日現在、議員8名(議員定数8名)で構成されており、年4回の定例会と必要に応じて開かれる臨時会で、条例の制定や予算の決定など行政の重要項目の審議、議決を行って、住民の福祉向上と村政発展に努めています。議会の活動や議事の要旨は広報誌「広報いなかだて」に掲載しており、より開かれた議会を目指して議会運営に取り組んでいます。



四季

春



田植え体験ツアー



ポーノ神/十二川原地区

集落に悪疫が入らないようにと、男女や猿、蛇のわら人形を作って、地区の入り口などに奉り、五穀豊穡や家内安全を願う伝統行事。



田舎館村クリーン・デイ

雪解けに合わせて、毎年4月初旬に、村内全地区で一斉に行われている清掃活動。住民は自分たちの住む地区内を巡回し、不法投棄や、歩道、側溝などに落ちているごみを拾い集め、農作業や観光シーズンの到来に備えます。



栃ノ海杯小中学生相撲大会



ねぶた祭り

津軽の短い夏を彩るねぶた。7月末から8月7日ごろにかけて各地区のねぶたが村内を運行します。また、8月4日には田舎館中学校に各地区のねぶたが一堂に集まり、役場までの区間で合同運行が行われます。



村レクまつり

村内全地区から住民が集う一大イベント。地区対抗の球技大会や様々なアトラクションが行われ、住民同士の交流を深めます。



稲刈り体験ツアー



地区対抗野球大会

地区ごとに結成されたチームが、小学校グラウンドと中学校野球場を会場にトーナメント方式で対戦します。試合終了後は地元で懇親会を行うチームが多く、地区や住民の交流の場となっています。



遊稲祭

総合案内所「遊稲の館」で実施している弥生体験田の参加者を招待し、施設で収穫した餅米を使って餅をつき、お汁粉にして振る舞います。



カバカバと福俵／大根子地区



お正月飾り教室

稲や折り鶴、扇子などの飾りを使って自分だけのオリジナルのお正月飾りを作ります。



子ども会雪上運動会

村内各地区の子ども会が集まり、雪にちなんだ競技を行います。雪に親しみ、屋外で遊ぶことの楽しさを体験します。

村民憲章 (昭和60年11月25日制定、平成29年12月1日改正)

わたくしたちは、北方稲作文化繁栄の地を誇りとし、輝かしい歴史と伝統をきずいてきた田舎館村民です。わたくしたちは、秀峰岩木のみねを仰ぎ、浅瀬石川の清流にうろおされている土地に住む幸せを感じ、さらに村民ひとしく健康で、豊かな村づくりを目指して、次の憲章を実践します。

- い 命を大切にし、水と緑を愛し、健康で活力のある村づくりにつとめます。
- な 何事にも協力しあい、人の和をはかり、明るい村づくりにつとめます。
- か 考えを深め、学ぶ態度を養い、創意に満ちた村づくりにつとめます。
- だ 誰ともふれあう心を持ち、思いやりのある村づくりにつとめます。
- て 天と地の恵みに感謝し、働くことを尊び、豊かな住みよい村づくりにつとめます。

田舎館村民歌 (平成27年4月1日制定)

平成27年4月1日、田舎館村は旧田舎館村、光田寺村との合併60周年を記念して、田舎館村民歌を制定し、7月26日に開催した合併60周年・村民歌制定記念式典で披露しました。制作にあたり、村をイメージするフレーズ及び歌詞を公募した中から次の方のフレーズ及び歌詞を採用し、弘前大学名誉教授である安達弘潮氏が作曲、安達氏と村民歌制定委員会が歌詞を補作しています。

【フレーズ採用者】 順不同

阿保由美子(田舎館村)、佐々木鶴池子(田舎館村)、山本正志(田舎館村)、山本幸美(田舎館村)、「田園」未来を築く会(田舎館村)、小友美保子(藤崎町)、長利冬道(弘前市)、田中尚子(弘前市)、松田耕一郎(弘前市)

【歌詞採用者】

保岡直樹(東京都)

田舎館村民歌

飛翔く我ら 未来の 大空 の サイカチ の 枝を ひろ げて 七色を 織り なす そよぐ 稲穂に に し を お ろ す 光る 風 たんぼ アート	しあわせ 願う 豊かな 恵みに 笑顔 あふ れて 集う 人の 和 四季を 彩る 流れ 清ら か 浅瀬 石川 よ 津軽 の 大 地 はず む 夢 実る 里 感謝 して 田舎 館	明日を 拓く 歴史と 文化を いのち を 燦め く 弥生 ロ マ ン が 仰ぐ 岩 木 峰 昇る 朝 陽 に 八 甲 田 緑も 躍 る 満ち あ ふ れ 稲の 花 受け つ い で 田 舎 館
--	---	---

田舎館村ホームページでは田舎館村民歌の音声ファイル(MP3形式)を公開しています。
<http://www.vill.inakadate.lg.jp/docs/2015030600012/>